

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和4年度 第1回相模原市総合計画審議会		
事務局 (担当課)	政策課 電話042-769-8203 (直通)		
開催日時	令和4年6月30日(木) 18時00分～20時00分		
開催場所	相模原市役所本庁舎本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	9人(別紙のとおり)	
	その他	0人(別紙のとおり)	
	事務局	5人(総合政策・少子化対策担当部長、政策課長、外3人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	<p style="text-align: center;">(1) 総合計画進行管理について</p> <p style="text-align: center;">(2) その他</p>		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり

高林総合政策・少子化対策担当部長の挨拶の後、三橋政策課長の進行により議事に入った。

(1) 総合計画進行管理について

○ 2次評価の対象施策に関すること

(会長) 事務局から、実績値が基準値を下回っている指標がある施策と重点テーマを中心として、2次評価対象施策の案を提示していただいた。他に2次評価が必要な施策があれば、審議の上、対象に加えていきたい。

(宮津委員) そもそもではあるが、1次評価の結果として、多くの指標が基準値を下回ったことが示されている。1次評価の結果についても審議会としてもう少し踏み込んで審議すべきではないか。

(会長) 1次評価についても各委員が意見する場を設けたいということによいか。1次評価への意見を含め、2次評価をどのように行うか審議をしていきたい。

(隅河内委員) 施策6について、地域共生社会の取組が国の施策として始まり重層的支援体制整備事業等も進む中で、本市においてもその取組を進めている。単なる地域福祉ではなく、複合的な、地域を巻き込んだ施策としなければならないという状況であり、2次評価対象施策の選定にあたり、社会情勢の変化等を考慮するのであれば、当該施策も対象とすべきと考える。

(横田委員) 目指すまちの姿単位で見たときに、目指すまちの姿Ⅳの施策は複数選定されている一方で、目指すまちの姿Ⅲの施策は候補としていない。新型コロナウイルス感染症で影響を受けている施策が各分野のどこにあるのか、そこをピックアップする考えもあろうと思う。

森林分野や流域治水といった防災の視点も重要と考えており、施策14は、コロナ禍でも重要な施策であろうと考えている。

(朝山委員) 施策1は、就学前の子どもが対象になろうと思うが、もう少し大きな子

どもたちへの支援が含まれているとよい。連動して施策4、6を追加してはどうか。

(副会長) 最終目標を超えている成果指標が27あるとのことであった。最初の進行管理の時点で20%程度が達成しているということはどう捉えるか。進行管理であるので、中間見直しに向けて、進んでいないものに対する管理だけでなく、当初の想定を既に超えているものについて、取組のデザインの錯誤などを調べることにも有効性があるのではないか。

(会長) 難しい問題であり、成果指標の目標値を直ぐに達成する例は他自治体でも見受けられる。この点については、先ほどのコロナの影響と同様に委員からの2次評価対象施策の意見を踏まえてもう一度議論をさせていただきたい。

(宮津委員) 施策27について、成果指標の設定時の考え方などの詳細を教えてください。

(事務局) 成果指標①は、周辺地域の中において中心市街地の魅力向上が図られているかを見る指標、②は商店街のにぎわいが創出されているかを見る指標となっており、目標設定検討時において、トレンドとしては減少傾向にあったという中、商店街の活力を維持したいという意図のもと目標値を設定している。

(宮津委員) 成果指標②について、目標値が横ばいとなっているが、コロナ前の数値に戻すことがよいのか。緊急性がある施策であると考えているので施策27を2次評価の対象として取り上げていただきたい。

(村田委員) 事務局案でも全体としてバランスは良いと思っているが、施策6と27を2次評価に加えることでより良くなると思う。

また、2次評価対象施策を追加するだけでなく、入れ替える・減らすという議論も必要ではないか。事務局案では施策28、31が選定されているが、この2施策には、重複する視点があるのではないかと考えている。施策31のみの審議で足りうるのではないか。

(会長) これまでの意見をまとめると、追加候補について施策4、6、14、27、逆に減ずるという視点では施策28となっている。仮に追加候補を全て追加とした場合、対応は可能か。

(事務局) 追加となると次回以降の審議会において審議会時間が長引くことがあると思う。委員にも負担がかかると思うがよろしいか。

(会長) 各委員の意見を予めまとめてから議論すれば、終えられるのではないか。4施策加えて12施策を対象に議論していくということで如何か。

(朝山委員) 事務局案の2次評価対象施策を入れ替える、又は削除する施策についてはどうか。

(隅河内委員) 先に、1次評価のみの施策についても意見を言える機会を設けることについて意見があった。これを踏まえると、一旦は全ての施策に目を通す必要があり、委員の作業内容的には大きく変わらないと思う。このままでよいのではないか。

○2次評価の実施方法について

(会長) 審議結果について評価報告書などという形でまとめる予定はあるのか。

(事務局) 2次評価対象施策の政策評価シートの“審議会からの意見”欄に箇条書きで意見を記載するのみとし、2次評価の総評として審議会の意見を取りまとめることは現時点では想定していない。

(会長) これまでの議論で1次評価に対する意見もあったことを踏まえ、審議会としては全体に対する意見ということもありうるのではないか。概評の様な取りまとめということもできればよい。加えて、最終目標を達成してしまっている施策への課題提起などもできればよい。概評として意見を出す機会があればよいと考えるが如何か。

(事務局) 様々な施策に意見を反映していくというのは、大変ありがたい。意見をいただく機会を設けることとし、その手法や意見を庁内に共有する方法等について検討させていただきたい。

(齋藤委員) 政策評価シート以外に資料をいただけるということだが、具体的にどのようなものか確認したい。

(事務局) 現在、本市では総合計画推進プログラムを策定し、総合計画の推進に向

けて特に取り組むべき具体的な事業計画を施策毎に定めている。まず、同推進プログラムにおいて推進するとしている事業の取組状況をお示ししていきたい。また、個別の成果指標の詳細評価や、冊子やチラシなど事業に関するなどもあればお示ししていきたい。

(齋藤委員) 例えば成果指標の捕捉が市民アンケートによるものであれば、どうい
う対象にどのくらいのアンケートを行い、有効回答数がいくつであった等の詳細
な資料があれば示していただきたい。

(副会長) 不足している情報として追加資料の要望があれば、事務局で準備いただ
けるという説明であったが、加えて、審議会からの質問があれば、回答を確認い
ただけるという理解でよろしいか。

(事務局) 時間はいただくことになると思うが対応してまいりたい。また、いただ
いた質問と回答については、委員全員に共有させていただく。

(朝山委員) 推進プログラムを追加でお示しいただけるとの説明であったが、政策
評価シートに箇条書きで事業一覧などがあれば、取組が一枚で完結し、より理解
度が深まるのではないか。

(事務局) どのように示すのが良いのか検討してまいりたい。

(須田委員) 取組の中でうまくいった優良事例などを紹介していただけると、今後
の議論の参考になると考えるが如何か。

(事務局) 事業の事例であればお示しできると思うが、審議対象としている施策
単位での優良事例となると難しいと考えている。お示しの仕方も含めて検討して
まいりたい。

(副会長) 今回の2次評価対象施策の選定基準として、今後3年間で新規事業の実
施や計画策定など動きのある施策であることを基準としているが、審議会として
その事業・計画自体に対して意見をして良いかを確認したい。一般的には新規事
業であれば、別途専門家の意見を伺う審議会等を設けるスキームとなっていよう
かと考えるが、どのように住み分けるべきか。

(事務局) 事業自体に意見を頂ければ、市としても新たな気づきとして、活用して

まいりたいと考えているが、本審議会で補完しなければならないというわけではない。審議に当たっては、個別の事業について審議するのではなく、長いスパンで市の方針に向かって取り組む方向性が適正であるか、全体としての方向性を審議いただきたいと考えている。

(宮津委員) 財源の確保がなければ施策の実現は出来ないと思うが、相応のエビデンス、根拠を持って進めることが出来るということによいのか。

(事務局) 限りある財源・人的資源の中、提案いただいた内容がすべて実現するわけではないが、頂いた意見については、庁内に展開し施策に反映できるよう検討を進めてまいりたい。

(隅河内委員) 総合計画の進行管理を事業レベルではなく施策レベルで行っていることの難しさがあると思う。それを把握するのが成果指標であるが、成果指標も施策の効果をすべて表しているものではないという課題もある。これを評価する際に、数値も大事であるが、施策レベルでは数値のみで評価することは困難であり、言葉や文章で評価していくという方法である必要がある。

また、縦割りなど組織上の問題も今後炙り出されてくると考える。そのような場合は、特に数値ではなく文章で示していくことの大切さを感じている。

(会長) 今年度はこのような形で進行管理を行ってまいりたい。

(異議なし)

(2) その他

今後のスケジュール等について、事務局から説明を行った。

(牛山会長) 本日の議事は終了とする。

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	牛山 久仁彦	明治大学政治経済学部教授 地域行政学科長	会長	出
2	長野 基	東京都立大学都市環境学部都市政策科学科准教授	副会長	出
3	朝山 あつこ	認定 NPO 法人キーパーソン 21 代表理事		出
4	出雲 明子	明治大学専門職大学院ガバナンス研究科教授		欠
5	隅河内 司	田園調布学園大学人間福祉学部教授		出
6	横田 樹広	東京都市大学環境学部環境創生学科教授		出
7	齋藤 祐子	公募委員		出
8	須田 理	公募委員		出
9	宮津 敏信	公募委員		出
10	村田 大輔	公募委員		出